平成２８年度　武蔵野市立第六中学校　学校評価報告書

校長　田極政一郎

NO.1

評価→Ａ：十分に達成されている　Ｂ：概ね達成されている　Ｃ：達成がやや不十分である　Ｄ：達成が不十分である

項目		重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
１①　力いっぱい自分の力を伸ばそう・学習について	学習指導	(1)学習意欲を持たせるために、学習内容を分かるようにさせる・勉強させる。 ①指導方法の工夫と授業規律の確立 ②少人数指導、習熟度別授業の充実 ③朝学習の実施と習慣化 ④各種検定試験等の受験の推進	○昨年度に引き続きICT機器を活用した授業展開を行い興味・関心を高める工夫と生徒が発表を行う言語活動の充　実を図ってきた。今年度は、さらに生徒が主体的にICT機器を活用する場面を意図的・計画的に行おうとしたが授業内容によって難しい面もあった。 ○授業の始まりと終わりのあいさつ、チャイム着席、忘れ物点検等を実施している。昨年よりも向上傾向にあるが忘れものについては課題が残っている。 ○小テストの実施の増加や繰り返し学習により基礎・基本の定着が図られてきている。 ○数学・英語では少人数・習熟度別授業を中心に実施している。さらに個に応じた指導方法の工夫が必要である。 ○朝学習の実施により基礎・基本の定着が図られている。 ○数学検定１４名受験。３級９名、４級1名合格。 英語検定４７名受験。準２級６名、３級１９名、４級１３名、５級４名合格。 漢字検定７２名受験。準２級１４名合格、３級２０名、４級６名、５級３名合格。（学校申込のみの人数）	Ｂ	○授業の中でICT機器の活用が定着してきているが、来年度は夏休みに　タブレットが整備されるので、さらに生徒一人一人がICT機器を活用し発表を行う等の授業展開の工夫を研究していく。 ○東京方式習少人数・熟度別指導ガイドラインを踏まえた数学・英語の少人数指導、習熟度別授業の充実により補充的な学習や発展的な学習を計画的に進め基礎・基本の定着と思考力を高めていく。 ○チャイム着席、始まりと終わりのあいさつ、忘れ物点検等、全教科の共通理解のもと今後も実施していく。 ○小テストの実施や繰り返し学習を計画的に有効に進めていく。 ○朝学習の実施を今後も進めていく。 ○各種検定試験の受験数が増加し、合格者数も増えている。来年度も機会を設け受験を促していく。	・フェイスブック等のＳＮＳは日々、変化している。学校でもＩＣＴ機器を活用していくことが必要である。 ・家庭環境の格差が大きくなる中で、公教育で３ＤプリンターのようなＩＣＴ機器を活用した授業を行ってほしい。 ・普通教室だけでなく、特別教室にもプロジェクターや電子黒板を導入し、全教科で授業に活用してほしい。 ・授業での小テストや各種検定試験の教員の労力は大変だが、生徒達の力になっていることは確かだと思う。職員の先生方の健康も気をつけてほしい。
	読書習慣	(2)朝読書の時間を設定し、望まし　い読書習慣の形成	○言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力を育成するために、年２回　「読書週間」による朝読書の期間を昨年よりも長く設定し、定着している。	Ａ	○読書週間が各学年定着し、落ち着いた時間になっている。今後も実施していく。	

		○図書室総選挙（ビブリオバトル）を年２回実施し、読書に対する生徒の関心が高まった。 ○図書委員による読み聞かせ活動を実施し、生徒の興味・関心を高めている。		○図書委員会が中心となり、昼休みに実施している「図書室総選挙」や「読み聞かせ」の企画を工夫し実施していく。 ○国語科の「話す・聞く」の授業でビブリオバトルを取り上げ連携していく。	
家庭学習等	(3)生徒が自主的・計画的に取り組めるような課題提示の工夫と定着への取組実施及び保護者への協力要請	○各教科・学年で計画的な家庭学習の課題提示と、学年での定着を図る取組等を行ってきたが、取組に個人差があり、定着には課題がある。 ○長期休業中の補充学習教室の実施、基礎・基本の定着と発展的な内容の学習教室等により自主的学習の場と機会を設定した。発展的な学習の充実が課題である。	B	○単元別テストや長期休業明けテストの実施や宿題等の課題をつくり家庭学習を定期的に行う機会を設ける。 ○長期休業中の補充学習教室や学習教室の曜日を増やす等の工夫を行い自主的学習の場と機会を設定する。 ○発展的な学習を計画的に充実させていく。	
校内研修	(4)「生徒がＩＣＴ機器を使った授業に主体的に取り組み、自らの言語能力を高め表現活動を行う力を養う」をテーマにした授業研究の実践	○体育、社会、数学で授業研究を実施し、全教員参加の研究協議会を実施した。	B	○校内研修テーマに基づく授業研究を実施する。生徒が自主的にICT機器を活用していく授業展開の工夫を研究する。	
外部人材	(5)外部人材による授業の実施	○音楽「三味線」「合唱」、国語「書写」、家庭科「ゆかた」、道徳「生命尊重」でオリンピック・パラリンピック教育で外部人材による授業が実施でき生徒の興味・関心が高められ、学習効果につながった。	B	○年間指導計画に位置づけ積極的に取り組んでいく。	

《学校関係者評価を受けての学校改善策》
・来年度もICT機器を活用した授業改善を行うように校内研修を中心に行っていく。
・生徒達の基礎学力を定着していくために、授業中の小テストや学習教室を来年度も取り入れていく。

NO.2

評価→Ａ：十分に達成されている　Ｂ：概ね達成されている　Ｃ：達成がやや不十分である　Ｄ：達成が不十分である

項目		重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
１②力いっぱい自分の力を伸ばそう・行事について	体育的行事	(1)陸上競技大会やマラソン大会の実施に当たり、運営や練習等の計画的な生徒の活動の設定	○実行委員会が中心になり自主的に企画運営に当たり、計画的な練習を実施してきた。多くの生徒が達成感・成就感を持っている。特に、マラソン大会に向けた朝練の取り組みは一人一人の自主性が見られた。	A	○今年度同様に本番で最高の演技が発揮できるよう、練習計画を含め事前準備を周到に進める。	・陸上競技大会や合唱コンクールは生徒達の成就感や達成感がとても感じられた。 ・クラス数も少なくこじんまりとしておりとても落ち着いた学校生活であった。 ・卒業式はとても立派な態度の卒業生で１＆２年生も良かった。
	文化的行事	(2)合唱コンクール、学習発表会等の実施に当たり、運営や準備等の計画的な生徒の活動の設定	○実行委員会が中心になり自主的に企画運営に当たり、計画的な練習に取り組んできた。多くの生徒が粘り強く取り組むことで達成感・成就感を持っている。会場が例年と違ったた準備・片付け等で戸惑った面もあった。	A	○来年度は会場が文化会館に戻り、当日の準備・片付けもスムーズにいくと思われる。本番で最高の発表が発揮できるよう、練習計画を含め事前準備を周到に進める。特に練習・準備への取組を重視し粘り強く取り組む支援を行う。	
	儀式的行事	(3)始業式、終業式、入学式、卒業式の実施に当たり、生徒の活動の設定	○始業式や終業式・入学式ではしっか気持ちが態度に表れていた。特に、３年生は卒業式の別れのことばや合唱への取り組みで自立的な姿勢・態度がみられた。	B	○儀式的行事は生徒の活動の場が限られるが、合唱等への取り組みを自主的に計画的に練習に取り組めるような支援を行う。	
	《学校関係者評価を受けての学校改善策》 ・体育的行事や文化的行事では実行委員を中心に自主的な活動を取り入れ成就感や達成感を味わえるようにしていく。					

NO.3

評価→Ａ：十分に達成されている　Ｂ：概ね達成されている　Ｃ：達成がやや不十分である　Ｄ：達成が不十分である

項目		重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
２　みんなで考え実行しよう	キャリア教育	(1)進路・職業に関する活動を進め「自分の将来」に対しての意識の向上	○コミュニュケーション能力の育成を考えた三年間のキャリア教育を指導計画に基づき行っている。特に、２年に行う職場体験では一人一人が仕事の楽しさや大変さを実感でき有意義なものになった。	B	○キャリア教育も教職員の共通理解のもと推進されている。今後も継続して行う。	・職場体験では生徒たちが貴重な体験を行っていた。生徒が希望し選んだ職種で体験できるように協力していきたい。
	特別活動・学級学年経営	(2)学級・学年行事等を通して協力し合う気持ちの向上	○学級活動や学年行事・生徒会活動等の取組から成就感や達成感を味わわせ、協力することの大切さを学んでいる。更に、各学級で工夫することができると考えられる。 ○学校行事や委員会、係活動を通して生徒一人一人がそれぞれの与えられた役割を果たすことで互いの良さに気づき、多くの生徒が達成感や成就感を持っている。	B	○年間指導計画を基に、学校行事や生徒会活動を円滑に行うとともに生徒の実態や置かれている状況を踏まえた課題を明確にし、その改善を図る。 ○今後も、一人でも多くの生徒が自信を持って活躍できる場や機会を与え、互いの良さを発見するとともに学び高め合えるよう働きかけを行う。	
	生活指導	(3)自己理解と他者理解の育成	○自己の考えと他者の考えの違いを意識させ、自分の考え、意見を表現させる機会を意図的に設定することで、他者の発表を常に真剣に聞く態度がほとんどの生徒でみられるようになった。さらに、計画的に機会を多くすることが課題である。	B	○全教育活動の年間指導計画を基に意図的・計画的に機会を設け実施し、育成していく。	
		(4)生徒会活動等で生徒の自主的な取り組みの向上	○花活動、地域清掃、落ち葉掃きの奉仕活動を改善し実施し、昨年度より多くの生徒が参加した。 ○生徒会を中心にした各種専門委員会の活動も継続して行っていた。	B	○生徒会を中心に奉仕活動の企画運営を改善をしながら継続的に行う。 ○各種専門委員会の活動の工夫が必要である。	
	《学校関係者評価を受けての学校改善策》 ・職場体験先については地域の方々の協力も得ながら実施していく。					

評価→Ａ：十分に達成されている　Ｂ：概ね達成されている　Ｃ：達成がやや不十分である　Ｄ：達成が不十分である

項目		重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
３　健康で心豊かな人になろう	地域行事	(1)地域行事等への参加の推進	○地域行事への参加は、生徒会が呼びかけを行う地域清掃や地域防災訓練等のボランティア活動としての参加と地域文化祭への生徒作品出展、バレーボール大会への参加を実施した。	A	○色々な場面で多くの地域行事を紹介し生徒への参加を促していく。 ○地域清掃等への参加をさらに生徒会を中心にＰＲし、促していく。	・生徒数が少なくなり、顧問の先生が不在の部活動の存続をしてほしい。地域コーディネーターも協力していきたい。
	体験活動	(2)セカンドスクール､校外学習、修学旅行等の直接体験を重視し豊かな発想、考えの深化	○１学年セカンド、２学年校外学習・職場体験､３学年修学旅行において、事前学習・体験・事後学習を通し、創意工夫のある活動に努めてきた。生徒にとって貴重な体験活動となっている。	A	○各学年の取組がより充実した体験活動となるよう、地域の教育力を活用しながら創意工夫を図る。	
		(3)総合的な学習での体験活動を中心にした課題設定、情報収集､情報の整理・分析､検証、まとめ、発表という一連の学習を通した人としての生き方を学び、考え、自らの生きる力の基盤の育成	○「地域・自然・産業」「産業(職業)」「歴史文化」のテーマに基づき、各学年で指導体制の工夫・改善を図り、生徒一人一人の発表まで行い成果を上げている。	A	○総合的な学習の実際の各活動のまとめと総まとめの学習発表会を考慮し、個々の発表を充実させる改善の工夫を図る。	
	道徳	(4)道徳授業の公開と、道徳の授業等における地域人材の活用	○道徳授業の公開は、資料等を活用した道徳授業と保護者・地域の方の参加のもと講演会を実施した。 ○「いのち」をテーマに各学年、武蔵野赤十字病院の助産師、医師が講師として授業を行い、生徒にとって貴重な時間になっている。	C	○平成30年度から実施される「特別な教科　道徳」が目指す「自己の生き方を深める」ために、ねらいを明確にした発問の設定、考える時間や話し合う活動などを多く取り入れた授業展開の工夫を行う。 ○武蔵野赤十字病院との連携を継続的に行っていく。	
	部活動	(6)部活動等による個性の伸張	○朝及び放課後の活動は、意欲的な取組がなされ、心や技術、運動部は体力が向上してきている。また、文化部のコンクールや運動部の土日及び休日の公式戦や練習も計画的に実施してきた。生徒一人一人の成長が成果として表れている。	B	○生徒が心身共に技術的にも成長できるように健康状態・安全に留意し、各部活動に応じた技能習得の指導を計画的かつ継続的に行う。一人一人の個性による成就感や達成感を味わわせ育成していく。	

特別支援教育	(7) ①スクールカウンセラーと１学年生徒の個人全員面談の実施 ②個別の支援を要する生徒への支援方法について、教員間の理解を深めるためのケース会議、検討会の実施	○１学期後半に１学年全生徒と実施し、生徒理解の助け、悩みや不安への早期発見、解決の機会となっている。 ○様々な悩みや課題を持っている生徒に対してスクールカウンセラーや市派遣相談員を含めたケース会議を継続的に実施し、支援方法について教員間の共通理解を図っている。	B	○今後もスクールカウンセラーと１学年生徒の個人面談を実施し生徒理解に役立て連携していく。 ○不登校の生徒に対する対応の仕方の共通理解をさらに深めていく。	
《学校関係者評価を受けての学校改善策》 ・今年度、活動している部活動は来年度も存続する方向で考えていく。					

NO.5

評価→Ａ：十分に達成されている　Ｂ：概ね達成されている　Ｃ：達成がやや不十分である　Ｄ：達成が不十分である

項目		重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
４ 開かれた学校	学校運営	(1)生徒・保護者・地域への説明責任	○生徒への情報提供、保護者会や地域の活動、ＨＰ、緊急メール等で学校情報を積極的に発信し、理解と協力を仰いできた。	Ｂ	○様々な会合において、学校の教育活動の情報発信を行う。学校便り等を準備し、一層の理解を図る。 ○学校便り、学年便り、ＨＰ、緊急メール等をさらに活用する。	・大きな地震が起きた場合には地域で中学生はとても貴重な人材である。救助者という形で学校で指導してもらいたい。
		(2)市民性を高める知的、文化的な地域力の活用	○教科、総合的な学習の時間、学校行事、部活動、PTA活動等で積極的な活用をしてきた。生徒及び教員にとって貴重な学習活動となっている。	Ｂ	○地域の教育力の情報をキャッチしより効果的な教育活動の展開を図る。 ○様々な分野で活躍されている地域の人材を発掘し､活用を図りたい。	
		(3)防災教育の充実	○三年間の見通しを踏まえ、１年で消火器訓練、２年で仮設トイレ等の防災倉庫の器具の使い方、３年で救命救急を行うことかできた。	Ｂ	○消防の緊急対応があり、いない場合のプログラムを考えておく。	
		(4)小中連携	○英語科で小学校へ出張授業を行い、地域の方々から好評価を得た。 ○小中合同協議会を年２回実施した。	Ｂ	○境南小への英語科の出張授業は実施した。来年度も1回は実施していく。 ○小中合同協議会はテーマの見直しを図っていく。	
	学校の公開	(5)学校公開日の周知、各種たより等の発行、学校運営への保護者の参画による公開	○開かれた学校づくり協議会委員及びPTA役員、地域の方々等の実行委員の協力を得ながら充実した内容となった。 ○学校運営への保護者の参画については、PTA役員・常任委員をはじめ協力を得てきている。 ○学校公開日の周知や学年だよりの発行については概ね良好であった。ホームページによる情報提供は学年担当の随時更新が遅れてしまった。学校便りは地域に配布しＰＲに努めた。	Ｂ	○今年度と同様に私費会計の監査、修学旅行業者の選定などに保護者の参画を推進する。 ○定期的もしくはタイムリーなホームページの更新を図る必要がありホームページ担当者の技術向上を図っていく。 ○学校便りや学年便り等の配布場所を広げ、より多くＰＲに努める。また、六中公開については参観者がなくなるようにＰＲを工夫する。	
	《学校関係者評価を受けての学校改善策》・地域で力になる人材になるように計画的に三年間で防災教育を行っていく。					